

ロシア航空工業界は、中国による SU-57 技術獲得を憂慮

漢和防務評論 20180908(抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ロシアは、インドが SU-57 の共同開発から撤退し、資金不足に苦しんでいます。
ひょっとして安倍首相はプーチンから資金援助を申し込まれたのではないか？(冗談) とにかくロシアは金がない。
ロシア航空工業界は、インドから中国に SU-57 の共同開発の相手が代わり、技術が流出する可能性を憂慮しています。

KDR モスクワ特電：

ロシア航空工業界は、インドに代わり最終的に中国が SU-57 技術を獲得するのではないかと憂慮している。航空工業界の上層部は、多くがこのような不安を持っていた。インドはすでに SU-57 開発計画からの撤退を決定したようだ。現在は、最終的な決定を待っている段階にある。インドはすでに数年間、SU-57 開発事業に対する追加投資を行っておらず、しかも次世代ステルス戦闘機の自力開発を開始した。今年、ロシアの国防予算は増加しておらず、むしろ減っている。国防工業会の消息筋は：ロシアは今後 8 年間、国防予算は増やせない。それどころか減額されるであろう、と述べた。

SU-57 の開発は、次の段階で大量の投資を必要とする。今年 2 月、ロシア空軍は 12 機購入した。これは形態 1 型である。真の第 5 世代戦闘機 SU-57 は、30 シリーズのエンジンを搭載する。現在は初号機が試験飛行中である。量産開始までには、なお巨大な投資と期間が必要になる。このほか、もしロシア空軍に予算がなければ、SU-57 をどの程度(機数)購入できるか未知数である。

ロシアの政治家(プーチン)が中国の要求に応じて SU-57 技術を中国に輸出する可能性があることを、なぜロシア航空工業界の人々が憂慮しているのか？その理由は、上記のとおり、SU-57 開発が厳しい状況にあるからである。SU-35 の対中輸出は、ロシア航空工業界内部で多くの人々が反対した。多くの軍事工業界の重量級人物を含め、SU-35 を中国に輸出するのにわずか 24 機であることに反対した。わざわざ知財権保護の協定を締結したとしても、ロシア航空工業界は安心しなかった：中国人は、依然 SU-35 の技術を盗み彼ら自身の第 5 世代戦闘機を開発するからである。

スホーイ設計局の技術者は J-20 を評価した際、次のように述べた：超音速飛行なんてできないよ。ステルス性も限定的だ。J-20 は第 5 世代戦闘機とは言えない、と。

それならなぜ中国人は SU-35 を獲得できたのだろうか？”これは政治家の決定である”。彼らは、SU-35 の対中輸出がロシア航空工業界にとって何を意味する

かを知っていた。我々が第一に関心を持ったのが知財権の保護である。しかしクレムリンには、もっと大きな考えがあった。国際外交、戦略等々、全てを考慮した上での判断である。したがってSU-35の対中輸出は、多くの反対にも関わらず、クレムリンが自ら最終決定した。消息筋は何度もこのように述べた。現在、この種の憂慮は、SU-57に移った。SU-57は、すでに9機目が生産された。もし、今後の開発に巨大な資金が必要になり、或いはロシア空軍が多くのSU-57を装備できないことになったならば、ロシアは協力者が必要になるだろう。過去はインドが最適と見られていた。一旦インドが撤退したあと、たとえその他のロシアと友好的な国がSU-57を求めたとしても、数が少なければ、資金不足の問題は依然として残る。今までは、インドの資金投入があるので、ロシアは当然中国のSU-57に対する要求を拒絶した。しかし今後の状況は、どのように発展するか、ロシア航空工業界から憂慮の声が聞こえる。まさにこのような理由から、ロシアはパキスタン空軍への1個中隊分のSU-35の輸出交渉を開始した。

以上